（様式１）

2020 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2021年　4月　1日
研究・研修課題名	遺伝カウンセリングスキルアップのための研修補助
研究・研修組織名（所属）	島根大学・遺伝医療に強い実践者育成プロジェクト（臨床遺伝診療部）
研究・研修責任者名（所属）	竹谷　健　（臨床遺伝診療部）
研究・研修実施者名（所属）	荒木もも子（看護部・臨床遺伝診療部）、皆本敏子（臨床遺伝診療部）

成果区分	☑学会発表　☐論文掲載　☐資格取得　☐認定更新　☐試験合格 ☐単位取得　☐その他の成果（　　）
該当者名(所属)	荒木もも子（看護部・臨床遺伝診療部）
学会名(会期・場所)、認定名等	学会発表：第 44 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会（2020 年 7 月、web 開催）
演題名・認証交付元等	学会発表演題名 ①がん医療に携わる看護職・相談部門の職員向け臨床遺伝学教育プログラムの作成と評価 ②がん医療における看護学生向け臨床遺伝学教育プログラムの作成と評価 ③（共演）出生前診断における看護職に必要な遺伝学の知識に関する文献考察 ④（共演）看護職・相談部門の職員向けの「基礎から学ぶ、がんと遺伝学」と題したアニメーション動画の作成と評価 ⑤（共演）嗅覚感受性と嗅覚受容体 SNP の関係を用いたヒトの多様性を学ぶ遺伝学教材の開発 ⑥（共演）APC 体細胞モザイクバリアント患者の血縁者の発症前診断
診療報酬加算の有・無	☐加算有（　　）　☑加算無

成果区分	☐学会発表　☐論文掲載　☑資格取得　☐認定更新　☑試験合格 ☐単位取得　☐その他の成果（　　） 受検費用等には使用していません。ただし今回受講したセミナー等は遺伝カウンセラーの知識として必要なため、受講し学んだ内容が資格取得に影響しています。
該当者名(所属)	荒木もも子（看護部・臨床遺伝診療部）
学会名(会期・場所)、認定名等	認定遺伝カウンセラー®
演題名・認証交付元等	日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会
取得日・認定期間等	取得日：2020 年 2 月 1 日 認定期間：2021 年 2 月 1 日～2026 年 3 月 31 日
診療報酬加算の有・無	☐加算有（　　）　☑加算無 直接的な加算はないが、遺伝学的検査の一部やゲノム医療を行う施設要件に認定遺伝カウンセラーの在籍が条件となるものがある。また、遺伝カウンセリング加算、遺伝性腫瘍カウンセリング加算の算定時において、認定遺伝カウンセラーが医師ともに遺伝カウンセリングを実施したという記載が効力になる。

（様式１）

目的及び方法、成果の内容

①目　的

第 30 回遺伝医学セミナー、第 13 回 遺伝カウンセリングアドバンストセミナーへ参加し、遺伝カウンセリングのスキルアップを図る。

②方　法

2020 年度開催のセミナー、学会へ参加し、最新の遺伝医療・ゲノム医療について学ぶ。
得た知識やスキルは、当院のシステム構築や、実践、教育へ活用する。
学会においては、遺伝医療や遺伝教育に関するテーマで発表を行い、学びを深める。

③成　果

・学会やセミナーに参加することで最新の遺伝カウンセリングの知識とスキルを得、2020 年 12 月に行われた認定遺伝カウンセラーの認定試験に合格した（当院初、島根県で 2 人目）。
・遺伝倫理や他院の取り組みを学び、多様な遺伝カウンセリングに対応できるよう、遺伝カウンセリングフローの作成、コスト面の整備、診療におけるルールの作成、説明文書の作成、各種部会の企画等、院内整備を行い遺伝カウンセリング件数の増加（図 1）に貢献した。(2020 年度：490 件)

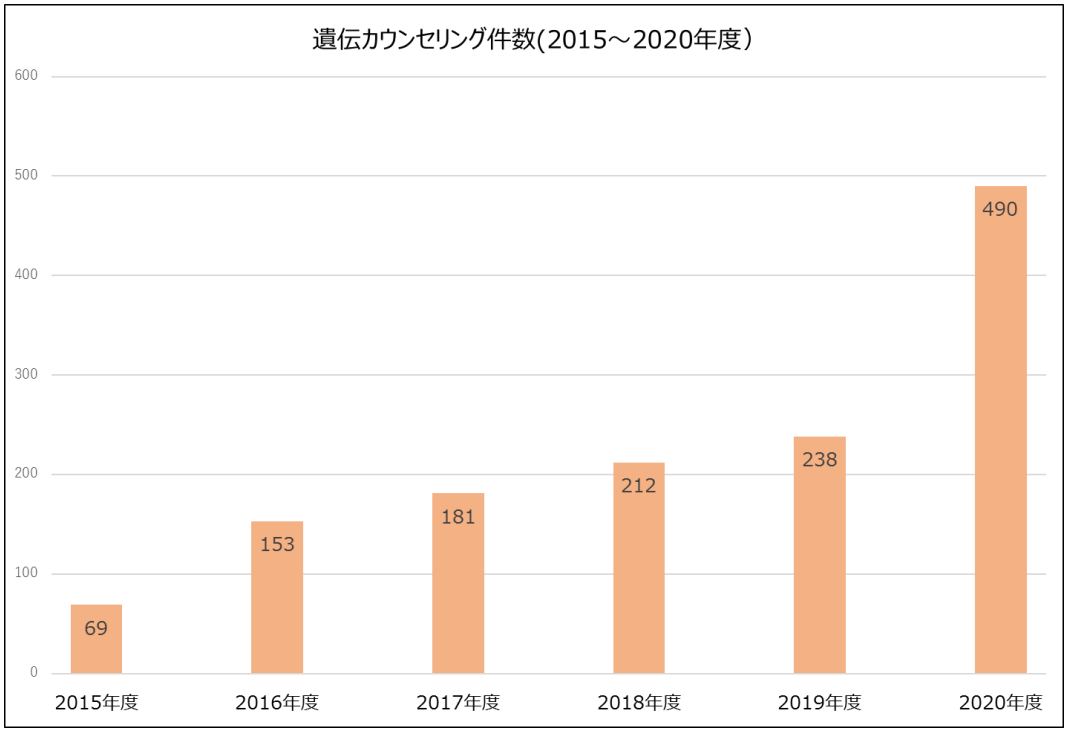

図 1. 当院における遺伝カウンセリング件数

・院内教育として、セミナーなどで得た知識をもとに、遺伝カンファレンスの企画、スタッフ教育、学生教育を実施した。遺伝カンファレンスは合計 16 回、延べ参加人数は 370 名と、院内の遺伝医療リテラシー向上に努めた。医学部学生には遺伝医学について 3 コマの講義を、院内外の職員に対して 4 回のゲノム医療に関する講義を実施した。専門性のあるスタッフ教育においては臨床遺伝専門医研修生を 2 名増員した。
・今年度保険収載された遺伝学的検査や治療において、全ての項目が当院でも可能となるよう整備を行った。遺伝子解析技術の進展により、遺伝医療・ゲノム医療は月単位で変化している状況である。当院の医療者が把握している情報のみだと日本全体の流れについて行けず、医療過疎が発生することが危惧される。また誤った知識から適切な医療を提供できない可能性もある。「保険収載で可能な検査や治療の情報を適切に院内に取り入れること」「質の高い遺伝医療・ゲノム医療を患者・家族に提供す

るために心理・社会的支援を多職種で協働して行うこと」これらを実行するためには、全国単位の学会参加やセミナーへの参加し学びを深めることが必須であると考える。継続して来年度も質の高い遺伝医療・ゲノム医療を提供できるよう努めたい。